

(指宿市西方横瀬)

位置と環境

横瀬遺跡は鹿児島県指宿市西方横瀬に所在し、指宿市街地より北に4kmの火山灰台地に位置する。

指宿地方は火山活動の痕跡が多く、九州一の湖である池田湖、薩摩富士で名高い開聞岳、自然の良港山川港等がある。いずれもカルデラや火山が形成され、それらの火山灰がこの地方に幾重にも堆積し、本遺跡で関係する火山灰は池田火山灰と開聞岳火山灰である。遺跡付近はこれらの火山灰と腐植土で形成され、西側の山側より東側の海岸へ緩やかに傾斜する標高30mの舌状台地に立地している。

調査の経緯

県営畑地総合土地改良事業に伴い、指宿市教育委員会が調査主体となり、鹿児島県教育委員会の協力を得て、昭和55年分布調査を実施し、昭和56年確認調査を実施した。

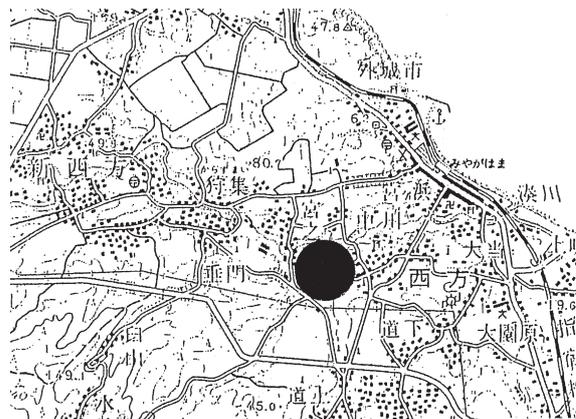
遺構と遺物

地層は第1層が表土、第2層は開聞岳噴出物互層とその腐植土層で8枚ある。第3層は池田湖火山灰とその腐植土層で4枚ある。第4層は、鬼界カルデラ火山噴出物と腐植土層で3枚ある。第5層は乳白色火山灰で、第6層は桜島噴出物と腐植土、第7層は茶褐色粘質火山灰層、第8層はシラスである。

本遺跡の包含層は第2層のeとfであるが、遺構の検出は第3層で検出した。

遺構は6×12mの範囲に12軒の方形竪穴住居跡が切り合いの関係で検出している。この中で柱穴が4軒ある竪穴住居跡は2号住居跡のほかは6号住居跡に見られる。調査の段階では、全て単独と判断したが、現在、再考すると3軒ほどの花卉形竪穴住居跡が考えられる。一花卉形としては、2号を中心に1号、3号、4号、7号、10号が一段上の張り出しが考えられる。なお中央の竪穴には一段低い土坑がある。4本の柱穴は2本ずつ間隔がよい。

遺物は、縄文時代晩期、弥生時代前期・後期、古墳時代、古代が出土している。本遺跡の主体となる住居跡は弥生時代後期にあたる。



第1図 横瀬遺跡の位置

住居跡内の遺物は、頸部で「く」の字に折れ、底部は若干充実するものと充実しないものがある。高坏は口縁部が立ち上がる器形で、脚部には円形の透かしがみられる。壺は口縁部が短く外反し、胴部に突帯が見られる。長頸壺は頸部から肩部にかけて7条の微隆起突帯が施され、底部は若干上げ底である。

土器のほかに、銅鏡と鉄製品が出土している。銅鏡は、質の良い白銅質の小形仿製鏡である。丸縁で垂直櫛歯文を外区に施し、内区に渦文が見られる。直径は6.5cmで厚みは1.5~1.8mmである。これと類似しているものは韓国の漁隠洞遺跡の仿製鏡がある。この鏡と韓国の鏡と照合をした結果、同範鏡はなく新例であるため「変形渦文鏡」としている。また、この鏡は小さく割られているためこの時期に見られる破砕鏡と考えられる。

特徴

弥生時代後期の花卉形住居跡の埋土内においては、土器のセットとともに破砕鏡がみられたことは、注目された。

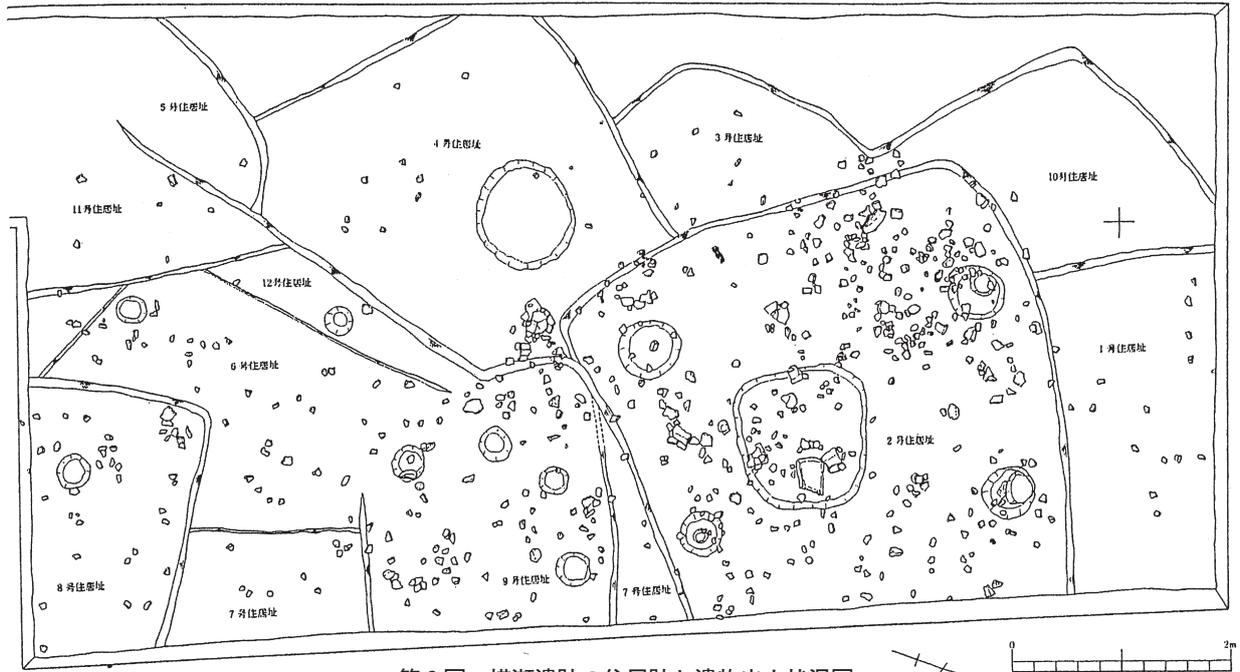
資料の存在

出土遺物は、指宿市教育委員会に保管されている。

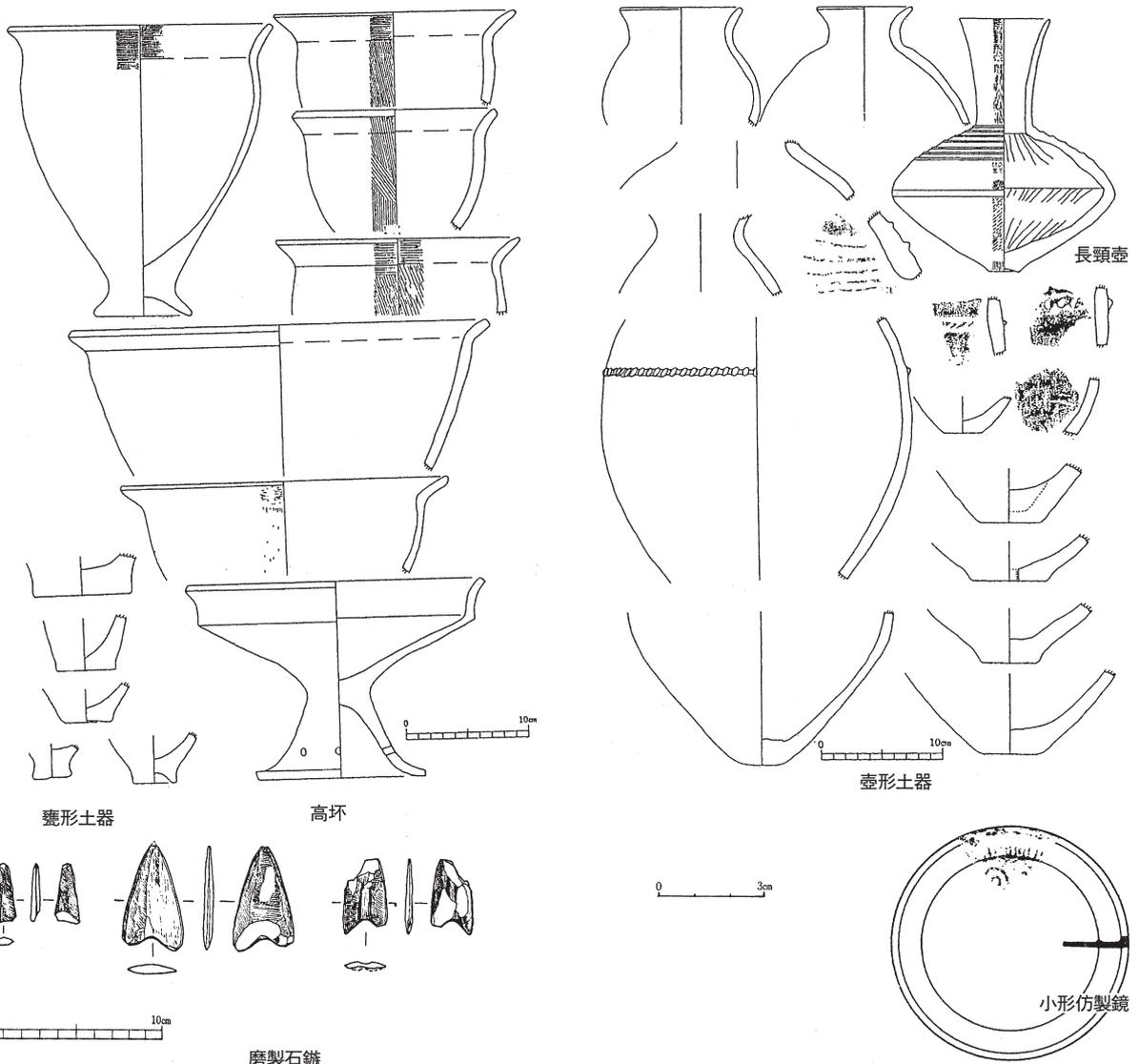
参考文献

指宿市教育委員会1982「横瀬遺跡」『指宿市埋蔵文化財調査報告書』6

(彌榮久志)



第2図 横瀬遺跡の住居跡と遺物出土状況図



第3図 出土遺物